

東谷地区の歴史

古代の東谷地区

東谷地区が歴史書に始めて登場するのは、日本書紀景行天皇の巻に禰疑野、紫生野〔現在の平尾台・貫山周辺〕に土蜘蛛八田を討つとあり、現在の平尾台の青竜窟に土蜘蛛が住んでいたといわれている。これが2世紀前半とされている。

また、同じ日本書紀に雄略天皇十二年（五世紀後半）聞物部大斧手（「企救の武人大野の人」との説あり）が伊勢の朝日郎を討つとある。大野とは桜橋以南の紫川上流の地域であり、東谷地区は大野郷の一部である。大野郷とは、おおむね現在の三谷地区にあたる。

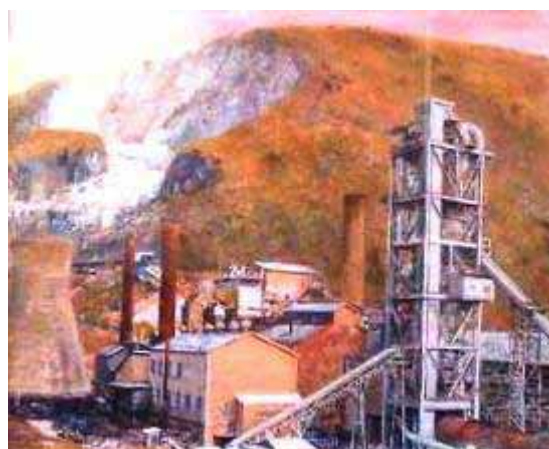
鉱山のまち東谷

和銅年間（710年頃）鉱山守護神として呼野の大山祇神社が奉祀されたとされており、東谷地区の鉱山の歴史は古い。和銅年間に鑄造された日本最古のお金「和同開珎」（708年）「東大寺の盧舎那仏（奈良の大仏）」（752年）には金辺峠の向こう採銅所の銅が用いられたとの記録があり、この頃、呼野においても銅の採掘が行われていたと考えられる。

また、江戸初期には、呼野で金山が開山し、小倉の隠し金庫であったとの記録がある。木下にも金鉱山跡がある。

明治22年に呼野の吉原鉱山が開山し、大正時代には、小森白谷に珪石採石所開山、市丸に中外大理石採石所開山、浅野セメントの呼野石灰石採石所が操業している。国会議事堂の皇族室の暖炉の大理石は、東谷で採れた金華石が使われている。次に昭和10年に東洋セメント（現 住友大阪セメント）の工場が市丸に建設された。昭和30年筑豊石灰工業（現 三菱マテリアル）が鉱山開発に着手し、昭和38年にセメント工場が操業を開始している。2つのセメント会社の全盛時は、東谷も活力ある賑やかな地区であった。

しかし、昭和40年代半ばよりセメント会社の衰退が始まる。全国的に輸送条件の悪い内陸部の工場は整理された。東谷地区の2つのセメント会社も例外ではなく、昭和59年に住友大阪セメントの工場が閉鎖、平成15年には三菱マテリアル（株）の東谷工場が閉鎖



住友大阪セメントの小倉工場



三菱マテリアルの東谷工場

され、両事業所とも現在は鉱山部門のみの操業となっている。また、西日本一の貨物取扱量を誇ったJR石原町駅の貨物部門も平成8年には閉鎖されている。セメント会社の衰退に伴い、社宅等もなくなり、東谷地区の人口は急激に減少した。尚、平成18年に三菱マテリアルと住友大阪セメントは、両鉱山の中間部の石灰石を採掘する平尾台の共同開発を発表し、平成23年現在、剥土と開発のための設備の整備が進められている。



石原町駅の貨物列車

東谷村から東谷地区へ

明治22年に呼野、小森、市丸、木下、井手浦、新道寺、母原、石原町、平尾の9ヶ村が集まり東谷村が発足した。昭和10年以降、セメント城下町として栄えており、村の財政事情が比較的裕福であったこともあり、東谷村は企救郡で最後まで一郡一村を維持していたが、昭和23年に小倉市に編入された。昭和38年北九州市の誕生とともに小倉区となり、昭和49年区再編に伴い小倉南区となる。昭和45年都市計画法が改正され、東谷地区全体が市街化調整区域に指定された。これに伴い東谷地区では住居や施設を建てるのが難しくなった。これが東谷地区の人口減少の元凶だとして、市街化区域への転換を推進すべきと言う声をよく聞く。



東谷地区の行政区の変遷

平尾台

平尾台は、新道寺町内が所有する入会地であったが、明治45年に陸軍省に売却し、これ以降、陸軍の演習場となった。戦後、昭和24年に平尾台確保委員会が組織され、平尾台を東谷地区に払下げしてもらうべく、運動を展開、昭和26年に設立間もない東谷農協に一部を払い下げられることを国が決定し、この翌年に平尾台が国の天然記念物に指定され、第1回平尾台観光まつりが開催されている。払い下げられた東谷地区の財産は、昭和43年に設立された社団法人東谷興農会に引き継がれている。昭和42年に平尾台丸和ランドが開業、翌年に平尾台観光センターが開設、昭和47年には平尾台が国定公園となっている。

平成に入ると平成2年に県道直方行橋線が開通。平成5年には平尾台の野焼きを再開

するとともに北九州市が"自然と人と産業の共生"をコンセプトとした「平尾台整備構想」を策定した。その翌年に「第1回高原ピクニックコンサート」開催されている。

平成12年県が「平尾台自然観察センター」を開館。また、北九州市が「平尾台自然の郷整備計画」を発表し、平成15年4月「平尾台自然の郷」がオープンしている。同年、平尾台観光祭が平尾台自然の郷で開催された。平尾台の地名の一部が新道寺から平尾台1～3丁目に改称されたのもこの年である。

平成17年には「平尾台野焼き」の茶ヶ床園地での一般公開がはじまっている。平成21年「第1回ふゆはなび」を開催、平成22年には、「第1回平尾台トレイルラン」が開催されている。



平尾台高原ピクニックコンサート



平尾台自然の郷



平尾台自然観察センター



平尾台自然の郷オープニングセレモニー

東谷地区の歴史（その1）

西暦	年号	内容
二世紀前半	景行天皇十五年	日本書紀景行天皇の巻に禰疑野、紫生野（現在の平尾台・貫山周辺）に土蜘蛛八田を討つとあり、今の青竜窟に土蜘蛛が住んでいたといわれている
五世紀後半	雄略天皇十二年	伊勢の朝日郎を討つとある。大野とは東谷を含む紫川上流の地域
五三六	宣化天皇元年	この頃 大宰府が出来る
五七二	継体天皇二年	国造磐井の反乱（東谷も戦火にさらされた）
六六六	天智天皇五年	高津尾に大野神社が建立される
七〇八	和銅元年	この頃 鉾山守護神として呼野の大山祇神社が奉祀
七四〇	天平一二年	藤原広嗣の乱（一軍が東谷を通り板櫃川の戦へ）
七四三	天平一五年	東大寺大仏建立の詔（採銅所や呼野の銅が使われた）
八〇四	延暦二三年	最澄が東谷を通り香春の神宮院で唐に渡るため安全祈願をする
九三八	天慶元年	平尾台の千仏寺開山（千仏の由来）
九四〇	天慶三年	天慶の乱（藤原純友の残党が東谷を敗走）
一一八五	文治元年	文治年間に清水神社への国守の下向が止んだ
一三八一	永徳元年	法円寺の梵鐘築造（明治一〇年京都都より新道寺が購入）
一三九五	至徳二年	祖西が井手浦西光寺に梵鐘を奉納
一三九九	応永六年	筑前を鎮めた大内盛見が呼野茶臼山城に入る
一四六六	文正元年	雪舟が村上邸の庭園を築造
一五二二	大永二年	木下城を詰城（亀甲を居館）とする小野田種尚が豊後に出陣
一五六一	永祿四年	大友宗麟豊前を制覇（母原の岩応寺に陣をはる・千仏寺焼かれる）
一五八五	天正十三年	因幡国山野大学介源種康が清水神社を再興（神社の創立は不詳）
一五八七	天正一五年	豊臣秀吉が九州征伐のため東谷を進軍
一五九七	慶長二年	呼野で金が発見される
一六〇二	慶長七年	細川忠興が中津より小倉に来封（東谷が小森手永の村になる）
一六二二	元名九年	この頃より呼野と石原町が宿場町として整備される
一六七七	寛文七年	呼野餅ヶ谷に金山開山（人口五千人に）・一八六三年閉山
一七八一	天明元年	大野郷九力村の崇敬により東大野八幡神社が建立
一八一三	文化一〇年	石原町に大火、本宿から半宿に格下げ（徳力が本宿に）
一八五六	安政三年	伊能忠敬が東谷を測量
一八五八	安政五年	平尾台の林刈りで争い（新道寺の権利が再確認される）
一八六三	文久三年	小笠原忠嘉 平尾台で具足訓練（訓練）を行う
一八六六	慶応二年	呼野金山閉山
一八六九	明治二年	島村志津摩が東谷で長州と戦う
一八七二	明治一〇年	義人原口九右衛門による企救一揆
一八七七	明治一〇年	新道寺小学校開校
一八八〇	明治一三年	呼野育英小学校（現市丸小学校）開校
一八八二	明治一四年	平狭小学校（現平尾分校）開校
一八八九	明治二二年	企救郡東谷村が発足・吉原鉾山（呼野）開発
一八九五	明治二八年	石原町郵便局開設（三谷地区を管轄）
一八九九	明治三二年	矢山地区を京都郡諫山村に移管
一九〇七	明治四〇年	東谷第一尋常小学校（現新道寺小学校）に高等科を併置
一九〇八	明治四一年	東谷村が最初の地域振興総合計画を策定
一九一五	明治四五年	新道寺が陸軍省に平尾台を売却
	大正四年	小倉鉄道（東小倉、添田）開業・村内に呼野駅、石原町駅を設置
	大正一一年	浅野セメントの呼野石灰石採石所が操業・一九五六年閉鎖
	大正一三年	市丸に中外大理石採石所開山
	昭和三年	第三尋常小学校（平尾台）文教堂になる
	昭和六年	道原と連絡する櫓ヶ峠トンネル開通
	昭和八年	呼野の旅館城井屋に俳人山頭火が宿泊
	昭和一〇年	最初の金辺トンネル開通
	昭和一六年	東洋セメント（後に磐城 住友）の工場が市丸で建設される
	昭和一七年	千仏鍾乳洞が国の天然記念物に指定される
	昭和一七年	東谷国民学校高等科が創設（現在の東谷中学校の位置）
	昭和一九年	現在の志井駅が開業
	昭和一九年	企救郡東谷村が一郡一村となる（曾根町が小倉市に編入）
	昭和一九年	東谷村農業会設立（信用購買販売利用組合解散：大正年間設立）

東谷地区の歴史（その2）

西暦	年号	内容
一九四六	昭和二十一年	平尾吹上峠の登山道工事
一九四七	昭和二十二年	学制改革により東谷中学校が開校 平尾台の旧陸軍用地への入植始まる
一九四八	昭和二十三年	三笠宮様が平尾台に来訪 東谷農業協同組合設立・東谷村が小倉市に編入
一九五〇	昭和二十五年	東谷地区協議会が発足 日本観光百選の高原の部で平尾台が第三位になる
一九五一	昭和二十六年	平尾台が福岡県自然公園に指定される 国から東谷農協に平尾台を払い下げられることが決定
一九五二	昭和二十七年	平尾台が国の天然記念物に指定される 第一回平尾台観光祭開催
一九五四	昭和二十九年	小倉市立東谷公民館が開館
一九五五	昭和三十年	筑豊石灰工業(株)（現三菱マテリアル）が鉾山開発（石灰石採掘）
一九六一	昭和三十六年	小倉鉄工団地協同組合（石原町）発足 青龍窟が国の天然記念物に指定される
一九六三	昭和三十八年	北九州市誕生（五市合併、小倉区に） 三菱セメント（現三菱マテリアル）東谷工場操業開始
一九六七	昭和四十二年	平尾台丸和ランド開業
一九六八	昭和四十四年	平尾台丸和ランド開業
一九七一	昭和四十六年	社団法人 東谷農会が設立・平尾台観光センター開館 呼野、志井駅が無人化
一九七二	昭和四十七年	平尾台が北九州国定公園に指定される 鱒淵ダム完成
一九七三	昭和四十八年	東谷農協が解散し、北九東部農協発足
一九七四	昭和四十九年	小倉南区が発足
一九八〇	昭和五十五年	小倉南区保存樹第一号として山家邸のタブノ木が指定される
一九八三	昭和五十八年	東谷郷土資料館が建設される
一九八四	昭和五十九年	東谷公民館・東谷出張所新庁舎が竣工 住友セメント閉鎖
一九八八	昭和六三年	国道三二二号バイパス開通（石原町～市丸） 九州自動車道小倉南IC供用開始
一九八九	平成元年	第二金辺トンネル開通
一九九四	平成六年	直方行橋線（平尾台～行橋）開通
一九九六	平成八年	石原町駅での貨物列車の廃止（貨物線廃止）
一九九八	平成一〇年	国道三二二号呼野バイパス開通（石原町～呼野全通）
一九九九	平成一一年	石原町駅の有人化する
二〇〇〇	平成一二年	平尾台自然観察センターオープン
二〇〇一	平成一三年	第一回東谷チャリティーコンサート開催
二〇〇二	平成一四年	東谷地区まちづくり協議会発足
二〇〇三	平成一五年	東谷市民福祉センター開設
二〇〇四	平成一六年	三菱マテリアルがセメント工場の閉鎖を発表 西鉄平尾台線廃止・おでかけ交通運行開始
二〇〇五	平成一七年	平尾台自然の郷オープン
二〇〇六	平成一八年	東谷郷土資料館開館記念行事 新道寺学童保育クラブ開設
二〇〇七	平成一九年	消防第十分団新庁舎竣工
二〇〇八	平成二〇年	まちづくりだより定期発行開始
二〇〇九	平成二一年	三菱・住友大阪セメント平尾台の共同開発を発表 第一回東谷農業祭開催
二〇一〇	平成二二年	東谷駐在所改築落成 第一回平尾台ふゆはなび開催
二〇一一	平成二三年	市丸学童保育クラブ小学校に移転 地域総括補助金の導入に伴いまちづくり協議会の組織を全面改組 東谷地区大雨災害 第一回平尾台トレイルラン開催 東谷地区二年連続の大雨災害 東谷地区まちづくり協議会十周年記念行事